

2024 年 度

世 界 史 B

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
記号で答えられるものは記号で記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の 1 ～ 9 ページに記載されています。
問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 次の文章を読んで、文中の空欄 A ～ T にあてはまる最も適切な語句または数字を記入しなさい。

近世ヨーロッパにおいて、多くの優れた学者たちが国際法の発展に寄与した。中でもオランダの法学者であった A が著した『戦争と平和の法』は、今日でも国際法の世界で引き合いに出される大作として知られている。こうしたことから、A は「国際法の祖」とも呼ばれている。近世以降のヨーロッパでは、特に「最後の宗教戦争」と評されることもある戦争の講和条約として、ドイツの B 地方の都市ミュンスターとオスナブリュックで開かれた和平会議に基づく B 条約にて、ヨーロッパの主権国家体制の確立が示されて以降、国家間の関係を規律する法として国際法の発展はより加速していったのである。

しかしながら、近代国際法はあくまでもキリスト教の教義やローマ法の伝統に基礎をおく世界の文明の所産であるとされていた。そのため、西洋諸国の文明水準に達していないとされた非欧米諸国は、国際法の適用主体とはなり得ないとされたのである。こうした非欧米諸国との間で締結されたのが、不平等条約である。いくつか取り上げてみよう。

西アジアでは、1828年にロシアと C 朝イランとの間で締結された D 条約がある。グルジア(ジョージア)に対する宗主権をめぐり勃発した2度に亘るイラン＝ロシア戦争により敗北したイランは、イラン北西部に位置する D にてロシアとの間で条約を締結したが、同条約は戦争賠償金の支払いや、国土の割譲のみならず、ロシアの治外法権を認め、関税自主権の喪失を内容とする不平等条約であった。この D 条約はイランがヨーロッパ列強諸国と結んだ最初の不平等条約であり、国家としての主権喪失の第一歩となった。1841年にイギリスとイランとの間で条約が締結され、これによりイギリスもロシアと同様に最恵国待遇を享受することとなった。

ヨーロッパ列強諸国の影響力が次第に増大していく中で、イラン国内では E が開祖となった新宗教の F 教が1840年代に広まった。イラン南部のシーラーズの商人の家庭に生まれた E は、シーア派の聖地の1つであるカルバラーを訪れた際、十二イマーム派の一学派であるシェイヒー派の指導者に

師事した。シェイヒー派は、隠れイマームと一般のシーア派信徒の仲立ちをする存在が必要であることを主張していたが、 は故郷に戻った後に、自らをその仲立ち、つまり隠れイマームへの「門」であるとして、アラビア語で「門」を意味する であると称するようになる。さらにその後、 は自らを「救世主」と名乗り、シャリーア廃止の宣言や『コーラン(クルアーン)』に代わる啓典として『バヤーン』を著し、社会の変革を訴えた。 教は、農民や中小商人の間に広く受け入れられたが、既存の宗教権威を激しく批判することに危機感を抱いた 朝政府により、厳しい弾圧を受けた。

教徒の乱を鎮圧する一方で、イラン国内では政府により近代化に向けた改革に着手する動きが見られたものの、1891年末から展開されたタバコ＝ボイコット運動や、1905年末に砂糖価格の高騰の責めを負わされた砂糖商人が処罰される事件に対する政府への抗議に端を発した立憲革命が起きるなど、国内情勢は混迷した。こうした混乱の中、軍人の がクーデターにより 朝の実権を1921年に掌握した。 は1925年にシャーに即位して 朝を建てたが、イランでヨーロッパ列強諸国に対する不平等条約の撤廃を成し遂げるのは、 朝期になってからのことである。

こうした不平等条約は、西アジアのみならず近代期の東アジアにおいても同様に締結されていった。続いては、中国で不平等条約が締結されるようになった経緯及びその状況を見てみる。

中国では、1757年以降、清朝第6代皇帝 (高宗)により対欧米海上貿易は広州に制限されたが、自由貿易を求めるイギリスは外交官を派遣することで事態の打開を図った。1792年に外交官の の率いる使節団が派遣され、翌年 は との謁見は許されたが、イギリス側の貿易に関する要求事項は認められず、 の使節団は目的を果たすことが出来なかった。さらに、1816年には外交官の が派遣されたものの、 が三跪九叩頭の礼を拒んだことから、第7代皇帝嘉慶帝(仁宗)との謁見が許されず、貿易関係の問題は解決されなかった。

中国とイギリスとの貿易関係をめぐっては、イギリスが中国から茶を輸入する一方、イギリス製品の中国における需要は限られ、中国への一方的な銀の流出が続い

たことから、東インド会社は、インド産のアヘンを中国に、中国産の茶をイギリスに、イギリス産の綿製品をインドに運ぶ三角貿易を行うようになる。この結果、中国ではアヘンの流入が増大したことにより害毒が広まり、また中国からの銀の流出により財政に影響を及ぼすようになったことから、第8代皇帝 (宣宗)はアヘンを取り締まるべく、アヘン厳禁論者であった を欽差大臣に任命した。1839年、 は派遣された、広州にて厳しいアヘンの取り締まりを行ったが、これに反発したイギリス政府は軍の派遣を決定した。圧倒的な軍事力を持つイギリスを前に敗北した清朝は、1842年にイギリスとの間で、香港島の割譲、賠償金の支払いなどが規定された 条約を締結、翌年には関税自主権の喪失や領事裁判権、片務的最恵国待遇を内容とする条約を締結した。

その後、マカオ郊外の にてアメリカとの間で条約が、広州郊外の にてフランスとの間で条約が締結された。 条約や 条約においても、関税自主権の喪失や領事裁判権などの内容が定められたが、こうした不平等条約を撤廃するため、近代中国では国際法が学ばれた。特に、国際法学者のヘンリー＝ホイートンの著作が漢訳され『万国公法』と題して出版されると、多大な影響を与えた。近代中国では司法制度改革が進められてゆくが、イギリスとの間で不平等条約の撤廃が実現するのは、 条約の締結からほぼ1世紀の時を経た1943年のことである。

なお、不平等条約撤廃以降も香港ではイギリスの領有が続いた。1949年9月に中国共産党や人民解放軍などの代表が出席した 会議が開催され、この場で共同綱領が採択され、『新民主主義論』の著者としても知られる が主席に選出された。 会議にて採択された共同綱領は建国の理念となったが、この共同綱領にて中国の独立・民主・平和・統一および富強のために奮闘する旨が規定された。この目標を達成するため、中国は国家統一に向けての歩みを進めていくが、香港をめぐる問題については、1982年に当時のイギリス首相であった が訪中し、両国間で協議が行われた。その後、香港返還に関する中英共同声明が1984年に調印され、香港は 年に中国へと返還された。

Ⅱ 次の文章を読んで、文中の空欄 A ～ O にあてはまる最も適切な語句を記入しなさい。なお、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。(例「ジョージ7世」)

2022年のロシアの軍事侵攻後ウクライナの人々は、詩人・小説家 A の像や記念碑を次々に倒した。報道によればチェルニヒウ・ザポリージャ・ハルキウなど、その数は2023年春に少なくとも30箇所を超えた。像の倒れるさまは、ポリシェビキを率いて1917年の革命を主導した B の像が、共産党支配を脱した東欧各地で次々に倒された光景を思い出させた。トルストイより1世代ほど早く現れ、『大尉の娘』などの作品を残したこの作家は、ウクライナとどのように関わるのだろうか。

A はロシアでは、文字が読めない人も一節はそらんじると言われる「国民的詩人」である。一方、その文人としての生涯のほぼすべてを秘密警察に監視され、ふたりの皇帝の治世にわたり二度追放処分を受けたお尋ね者でもあった。1812年に将兵60万を率いた皇帝 C の侵攻を焦土作戦でしりぞけ、ヨーロッパのキリスト教国の君主による D 同盟を成立させたアレクサンドル1世と、その弟で正教会の守護者を自認し、オスマン帝国・イギリス・フランスの連合軍との E 戦争のさなかに亡くなったニコライ1世の在位中のことである。自由を讃え「玉座の上の悪」を糾弾する詩がアレクサンドル1世の逆鱗にふれ、彼はまずモルドバに流された。また一度はニコライ1世に召し出され、皇帝が1825年の自らの即位当日に武力鎮圧した F の乱について直々に詰問されたが、 A は蜂起に参加した友人たちの思慮深さを弁護する気骨を見せたと言われる。

A はモルドバ追放のさい幾度か隣接するウクライナを訪ね、その地の歴史にも触れた。ところが、このさい得た知見を反映する叙事詩『ボルタヴァ』が、今日のウクライナで憎悪的となっているという。この叙事詩は、圧政を逃れた様々な民族の農民らが15世紀ごろから南部ロシア各地に定着し、 G と呼ばれる軍事的な共同体を形成していた時代を描く。ウクライナ地方では17世紀なかば、首領フメリニツキーがリトアニア＝ポーランド王国を破り、 G の政治的独立を果たしていた。叙事詩の背景は18世紀初頭、ロシア皇帝 H がデンマーク

などと結び、バルト海の支配権を当時の強国 [I] と争った北方戦争である。ウクライナの [G] は首領マゼーパの下で [I] 側に寝返ったあげく、中部ウクライナのポルタヴァでロシアに惨敗した。叙事詩『ポルタヴァ』はこのマゼーパを残忍な裏切り者として描くが、現代ウクライナの民族主義者にとってマゼーパはフメリニツキーとならぶ英雄である。

とはいえ、当時の [G] に明確な民族的自覚があったかも、それが現代ウクライナの人々とのどの程度結びつくかも、必ずしも判然としない。さらには、[G] の血なまぐさい記憶との一体化が21世紀のヨーロッパで賢明な主張と言えるかも疑わしい。10年におよぶフメリニツキーの反乱により、[J] 人だけで数万から10万の非戦闘員が殺されたと推定する研究者が多い。十字軍時代の迫害を上回り、総統 [K] の下でナチス＝ドイツが600万人を殺戮する以前では最悪の [J] 人虐殺との見かたもある。そもそもマゼーパの惨敗がウクライナの悲劇なら、誰がわざわざポルタヴァに [A] 像を建て、なぜ他の町で撤去が進むまで放置していたのかも腑に落ちない。

最も由緒ある [A] 像は、1880年にモスクワ中心部に建てられ、トゥルゲーネフとドストエフスキーの手で除幕された銅像だろう。この詩人へのソ連共産党の評価は、革命後、像の立つ広場が「[A] 広場」と改名されたことにも現れる。[L] の壁開放翌年の1990年、共産党支配の終焉を暗示する不似合いなモニュメントが建ったのもこの広場だった。マクドナルドのソ連国内1号店が開店したのである。1980年代後半に始まり、ロシア語で「[M] 」と呼ばれた政治・外交・経済・歴史観の大改革の産物と言えるだろう。この改革を進めたゴルバチョフは翌1991年末にソ連大統領を辞任し、広場から2キロほど離れたクレムリンは新たな主人としてロシア大統領 [N] を迎えた。このさい引き継がれた核ミサイルの発射権限は、さらにプーチンに継承され、やがてウクライナ侵攻のさい解決の深刻な足かせとなる。侵攻後主要国による制裁が拡がる中、ロシア国内のマクドナルドも全店舗が休業し、のちに売却された。

仮に世界中で次々に [A] 像が倒されても、ロシアとともに彼を最後まで顕彰する国々が残るのは、おそらくアフリカである。『オネーギン』などの作品によれば、彼の母方の曾祖父アブラム(イブラヒーム)はエチオピア(あるいは現在のエリ

トリア)出身で、人質ないし奴隷としてオスマン帝国に囚われた後ロシアに連れ出され、皇帝 の小姓から身を立てロシア陸軍の将官となった。彼はアフリカ系であることを誇り、ローマを脅かした古代植民市 の勇将にちなんで、自らガンニバル(ハンニバル)姓を名乗った。ロシアにはまれなこのアフリカの血統を、曾孫 も終生大きな誇りとした。

Ⅲ 次の文章を読んで、文中の空欄 ～ にあてはまる最も適切な語句を記入しなさい。

イスラームは7世紀の初めにアラビア半島の名族クライシュ族の 家に生まれた預言者ムハンマドによって勃興した。イスラームを信仰するムスリムと呼ばれる人々の宗教共同体は と呼ばれ、当初はアラブ人を中心としていたが、異民族の改宗者(アラビア語で と呼ばれる)を取り込んで、急速に勢力を拡大した。この宗教共同体は最終的には、地中海沿岸地域から中央アジアに至る広大な地域に広がり、信仰を基盤にした巨大な帝国となった。

イスラームは、また文化においても、東西の先行の文明圏の間に張り巡らされたネットワークから様々な文物を吸収して自らの社会秩序のうちに消化することで、新たな文化、文明を作り上げた。

各地の都市には信仰の拠点であるモスクや、イスラーム固有の学問の拠点となる学院(アラビア語で と呼ばれる)が整備された。これらのモスクや に加え、市場や病院などの公共施設は、アラビア語で といわれる信徒からの寄進によって建設、維持された。

を拠点として行われたイスラーム固有の学問としては、聖典コーラン(クルアーン)についての学問と、コーランに次ぐ聖典とされる預言者の言行についての伝承(アラビア語で と呼ばれる)についての学問、そしてこれらの学問を基盤としたイスラーム法学、神学などが挙げられる。また、コーランや を理解する助けとして、歴史学や詩学もまた発展した。イスラーム世界の歴史家としては『世界史序説』を著した がよく知られている。

他方、イスラーム世界の広がりとともに、ギリシアやオリエント、インドなど先行する文明の成果を引き継いで、外来の学問といわれる研究も発展した。アッバース朝のカリフ、マームーンの時代には、バクダードに が築かれて、ギリシア語の哲学、諸科学に関する書籍の翻訳や研究がなされ、そこでアルゴリズムの語源ともなったといわれる数学者の も活躍したとされる。この後、イスラーム圏の哲学や諸科学は、イスラーム固有の諸学問との対話のなかで独自の進化をしていき、『医学典範』を書いたイブン＝シーナーや『医学大全』を書いた

は、アリストテレスの哲学の解釈書の著者として、ヨーロッパのスコラ学にも影響を与えた。

Ⅳ 次の文章A～Eにあてはまる建築物の名称を答えなさい。

- A. 歴代のダライ＝ラマが居住し、チベットの政治・宗教の中心であり、17世紀にダライ＝ラマ5世によりラサの北西の岩丘上に築かれた壮大な宮殿。
- B. 12世紀のスールヤヴァルマン2世により造営されたクメール建築の代表。ヒンドゥー寺院として造営されたが、後に仏教寺院に改修された。回廊には『マハーバータ』などの物語が浮き彫りにされている。
- C. ムガル皇帝シャー＝ジャハーンが妃のためにアグラに建てた墓廟。大理石を用いた浮き彫りや透かし彫り、貴石をはめ込んだ壁などで装飾され、インド＝イスラーム建築の代表。
- D. ナスル朝が都グラナダに建造した宮殿であり、スペイン＝イスラーム建築の代表と言われる。その「獅子の中庭」は幾何学模様が特徴的なアラベスクで装飾が施されている。
- E. シリアのダマスクスにある、現存する最古のモスク。8世紀初め、カリフのワリード1世の命により建てられた。キリスト教の教会の一部を転用して作られ、外壁やアーケードには天国をイメージしたモザイクが描かれている。